

堀 潮名譽教授年譜

明治二十五年六月一日 熊本縣玉名郡長洲町に出生。

明治三十九年四月 熊本縣立商業學校に入學。

明治四十四年三月 同校を卒業。

明治四十四年四月 朝鮮銀行に入る。この年父久太郎逝去。

大正二年十二月 朝鮮銀行を退職。

大正三年九月 東京高等商業學校に入學。

大正七年三月 同校本科を卒業。

大正七年四月 同校專攻部に進學。外交官試験を受くる目的を以て領事科の課程を履修。

大正九年三月 同校專攻部を卒業。故堀光龜教授の懇望により、文部省在外研究員たることを承諾。

大正九年四月 法政大學教授及び明治學院教授に任ぜらる。

大正十一年二月 法政大學及び明治學院を辭職し、文部省在外研究員として渡歐。牧師植村正久氏の勸説により、イギリスに留學し、イギリス社會思想の研究を志す。

大正十一年四月 London School of Economics and Political Sciences の特別聽講生となり、Prof. Harold J. Laski の研究室に入る。

論文 One Aspect of the Japanese Restoration in 1868 を執筆。
イギリス滞在中、フランスを訪り、ラスキー教授の紹介にて Ecole Libre des Sciences Politiques の聽講

生となり、Prof. E. Halevy の指導を受く。
大正十四年三月 歸朝、和歌山高等商業學校教授に任命せられ、經濟史及び經濟政策の講義を擔任。

一橋論叢 第三十七卷 第三號

同年同校に於いて機關雜誌『商學論叢』を發行することとなり、第二號より三回に亘って『英國思想史上に於けるホップス及びロックの地位』を連載執筆。

『資本課徴 (Capital Levy) 解説』を同校バンフレット第一號として發表。

昭和六年五月 東京商科大學學生主事兼専門部教授に轉任を命ぜられ、工業政策及びフランス語を擔任。

昭和九年 同校バンフレットに『英國合理主義思想の先驅としてのホップス及びロック』を執筆。

昭和十一年四月 東京商科大學豫科に轉任を命ぜらる。

昭和十二年四月 豫科主事を命ぜらる。

豫科在任中、昭和十六年夏、滿洲國政府の招聘を受け、同國の學事視察を行う。

昭和十六年十二月 太平洋戰爭勃發。ほとんど授業不可能に陥る。

右在任中、一橋論叢に『英國統制論の自由主義的性格』及び『産業革命の主體的考察』を執筆。

昭和十九年四月 豫科長を免ぜられ、教授となる。

昭和三十一年四月 停年退職。一橋大學名譽教授の稱號を受く。